

尖閣周辺の海洋保全訴える

山田吉彦教授らが講演

環境問題など議論



基調講演をする山田教授

24日午後、市内ホテルで「海洋タウンミーティングin石垣島」
Ⅱ八重山の海の利用を考えるⅡ(大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所主催)が行われ、大学関係者や青年会議所メンバー、市役所職員、漁業関係者などが参加した。
まず基調講演として山田吉彦 東海大学海洋学部教授が、「八重山の海とその利用」をテーマに、尖閣諸島の海洋と環境を中心に話し、尖閣諸島とその周辺の海洋保全の必要性を訴えた。また中国は国際法をよく研究しており、尖閣諸島のひとつでも

取れば、中間線がなくなるため、勝ちだと思っている。そうなる

と、日本は東シナ海を失うことにもなりかねないと警鐘を鳴らした。続いて山田吉彦教授、川崎一平 東海大学海洋学部教授、石川智士 総合地球環境学研究所准教授らが中心となり、会場のメンバーとフリートークを展開し、陸域と海域との関

連性や、石垣が持つ様々な環境問題などを熱心に議論し、尖閣を始めとする八重山を世界遺産登録することによって、世界の目をこちらに向ければ、必然的に環境保全にもつながるとの議論がなされた。山田教授は「環境保全には、必ずしも経済的効果があるとは限らない」と述べ、環境保全の重要性を訴えた。